

先月の半ば、宮古島で風力発電所をなぎ倒し、その後、韓国に大きな被害を与えた台風14号。日本海の方を通ったので、京都では少し風が強いかなっていう程度でしたね。でも、舞鶴湾の沿岸部では普段より75%も海面が高くなつた高潮のために、床下浸水や道路が冠水する被害が數十カ所も出ました。さて、こういう高潮が起こるときには、たまたま自分の海水が沖から岸へと運ばれます。舞鶴湾の面積はおよそ23

平方キロ。75%海面が上がるためには必要な海水の量は、東京ドーム14杯分、小学校の25杯分、上野正博

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

急潮

潮



定置網復旧のため、新たな土俵を運ぶ田井の漁業関係者ら(舞鶴市民新聞提供)

舞鶴の面積はおよそ23平方キロ。75%海面が上がるために必要な海水の大敵。台風14号が起きた急潮では京都府下で8カ所の定置網に壊され、もう1つも半壊して被害は数億円。網の修理のために1カ月の休漁を余儀なくされています。壊れた網は数百本から数本の長さ、身網は数百本四方もありますから、強い流れを受けたときの抵抗はすごいのです。今回壊れた網を支えていた土俵は全部で6000個。1つが50kgですから、合わせて300トンもの重りが引きずられ、網がぐちやぐちやになってしまったのです。

急潮は台風だけでなく、低気圧が接近したときにも起こります。今回のように定置網に大きな被害が出ることがあるので、宮津にある京都府立海洋センターでは、急潮が発生しそうなときには注意を呼びかけています。